

部門紹介

～リハビリテーション科（言語聴覚士）

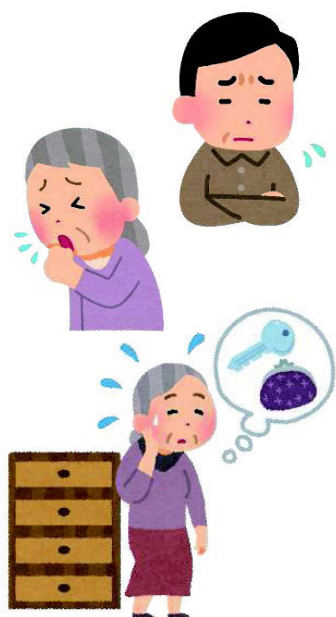
言語聴覚士 陶山 章子



今回は、リハビリ職の中から、言語聴覚士の紹介をさせていただきます。

言語聴覚士は、聞く・話す・食べるといった、普段私たちが日常的に行っていることが、脳卒中や事故などによる脳の損傷や加齢によって、以前のようにできなくなった方々に対してリハビリを行っています。

当院には、リハビリに特化した回復期リハビリテーション病棟があり、脳血管疾患や、その他の急性期治療を終えた患者様が一日も早く家庭や社会に戻れるようにリハビリテーションを提供しています。また当院一般病棟に入院された患者様に対しては、長期入院による体力や認知機能の低下を防ぐために、早期離床を心がけてベッドサイドよりリハビリを開始しています。



訓練では、失語症（言葉を聞いても理解できない、表現したくてもできない障害）や構音障害（正しく発音できない障害）といった言語障害や、食べ物の飲み込みが上手くいかず、口からこぼれてしまったり、むせてしまったりする摂食嚥下（せつしょくえんげ）障害のある方に対してひとりの問題の原因を明らかにして対処法を見つけ出し、リハビリを通して症状の改善を図ります。

また記憶障害（物の置き場所を忘れたり、新しいことを覚えられない）、注意障害（作業を長く続けられない、複数のことを同時に行うと混乱する）や遂行機能障害（計画を立ててものごとを実行することができない）といった高次脳機能障害がある患者様に対しても、社会復帰に向けてリハビリを行っています。

当院のリハビリ科には7名の言語聴覚士が在籍しています。患者様やご家族のニーズに合ったリハビリを提供するために、退院後の生活、方向性を見据えたアドバイスができるよう日々努力しています。

ご入院の期間は限られていますが、できる限り長期的な視点で患者様の生活や価値観に沿ったゴールと一緒に目指し、全力でサポートしていきたいと考えています。

